

絆

K I Z U N A

2022 APRIL

JAグループ青森 月刊広報誌 [904号]

4





国消国産。

未来につなぐ。
私たちの食と農。

「国民が必要として消費する食料は、できるだけその国で生産する」。この考え方を「国産国産（こくしょうこくさん）」といいます。これは、私たちの何もない日々を取り、生活を支えてくれる豊かな「食」を明日へつないでいくために、一人ひとりがきちんと向き合い、考えなくてはいけない重要なテーマだと、JAグループは考えています。

日本の食料自給率は依然として過半数低水準です。

もし、世界的な気候変動や人口増加による食料不足で、様々な国が輸出を制限してしまったら、私たちの食生活はどうなってしまうでしょう。日本の農業は、若い手の高齢化・減少が進み、跡を継がず荒れてしまった農地が増えています。農産物は短期間で生産を増やすことが難しく、一度荒れた農地を再び生産できる状態に戻すには、長い時間と大きな労力が必要です。

さらに、農業・農村には、洪水等の災害から田を守り、多様な生き物のすみかにもなるなど、食への価値を生み出すほかに多くの役割がありますが、これらの役割を維持することも難しくなっています。

このように、いま、日本の食・農は多くの課題に直面しています。その課題を解決するためにも、「国産国産」はとても大切な考え方です。

JAグループは、皆さんの豊かな食生活を、そして、日本の農業を、持続可能でより良いものとするため、「国産国産」に取り組んでいます。皆さんも一緒に、国産の農産物を食べ、飲んで、応援して、大切な日本の食・農を、未来へつなごうませんか。



耕そう、大地と地域の未来。JAグループ

QRコード





J Aグループ青森 持続可能な農業と地域の実現に向けて ～ 第29回 J A青森県大会決議事項の実践 ～

J Aグループ青森は、第29回 J A青森県大会（令和4年2月25日開催）において、「持続可能な農業と地域の実現」を主題に、令和4年度から3年間のめざす方向と4つの重点目標を確認し、大会決議案を採択しました。

第29回大会においては、前回大会決議の「10年後も元気な農業と地域」の達成をめざし、現在実践している取組事項の“さらなる深化”により、私たち自身と、その先の世代に続く“持続可能”な農業と地域の実現をめざすことを確認しました。また、自己改革についても、計画・実践と進捗管理などのPDCAサイクルによる不断の自己改革を実践し、協同組合としての社会的役割を果たしていくことも確認しました。

本県は、全国に誇れる農畜産物がバランスよく生産されており、全国有数の農業県であります。農業従事者の減少や高齢化による担い手と労働力不足の進展により、農業生産基盤の弱体化が進行しています。また、J Aにおいては、正組合員の高齢化や世代交代により組織基盤の変化と多様化の進行、事業を取りまく環境の厳しさにより事業取扱高の減少と事業総利益の減少傾向が続いています。

大会では、これらの本県農業・J Aを取りまく環境を「3つの危機」と課題認識し、その解決に向け、食料・農業基盤の確立と組合員・地域住民の豊かな暮らしの実現への取組み、それをすすめるための組織・経営基盤の強化、さらには、その土台となる食・農の重要性やJ Aグループをはじめとする協同組合の理解醸成の重点目標達成に向けた実践が求められます。

今後、大会決議事項の実践にあたっては、J Aグループ青森が、個々の経営課題や地域の実情に応じて中長期計画に実施方を盛り込み、より具体的な実施内容を単年度事業計画に反映し、着実に実践することが重要です。

先人曰く、「一人の百歩前進よりも百人の一步前進」という言葉があります。J Aグループ青森は、自主・自立の協同組合として、組合員と地域にとってなくてはならない組織であり続けるために、協同組合の原点である「相互扶助の精神」のもと、課題解決に向けて、皆で一步前進していきましょう。

J A青森中央会

絆 4 目次 CONTENTS

巻頭言	1	経営の窓口	18
特集	2	東北農政局通信あおもり	20
フラッシュ	4	J Aつがる弘前NEWS	21
インフォメーション	6	輝き	22
実践農業者支援	14	すすめ！SDGs!	22
組織農政通信	16	みりよく発信	23

特集

番組で旬の県産やさい・花きを発信！

JA全農あおもり



JA全農あおもりは、5月から始めた青森テレビの番組「Fresh Vegetable」で月2回（金曜日の夕方6時56分から約3分間）、県内のJAから旬の県産やさいや花きを発信している。

番組リポーターは我満紗千子さん。我満さんが生産者のほ場や選果施設を訪問し、生産者と対談しながら旬のやさいの魅力や、栽培ポイントなどについて紹介するもの。

11月12日放送

JAおいらせ ～ごぼう～

10月26日、JAおいらせの組合員・小湊倫明さんのほ場（三沢市）で撮影を行った。

小湊さんは「県南地区のやわらかい黒ぼく土が、長くて美味しいごぼうを作る」と紹介した。



放送内容はこちら



▲ごぼうを紹介する小湊さん㊟

11月26日放送

JA八戸 ～山の芋～



▲丸いもを紹介する佐藤さん㊟

11月8日、JA八戸の組合員・佐藤文昭さんのほ場（五戸町）で撮影を行った。

佐藤さんは「昔ながらの土や昼夜の寒暖差など、自然の力が美味しい丸いもを作る」と紹介した。



放送内容はこちら

12月10日放送

JA津軽みらい ～アルストロメリア～

11月30日、JA津軽みらいの組合員・山内壮一郎さんのほ場（藤崎町）で撮影を行った。

山内さんは「細い株を剪定し株間を広くすることで、太くて丈夫な茎が出やすくなり、品質のよい花に仕上がる」と紹介した。



放送内容はこちら



▲アルストロメリアを紹介する山内さん㊟

12月24日放送

JAゆうき青森 ～ながいも～



▲ながいもを紹介する甲地さん㊟

11月17日、JAゆうき青森の組合員・甲地優志さんのほ場（東北町）で撮影を行った。

甲地さんは「今年産も品質の良いものが出来ている。是非食べてもらいたい」と話した。



放送内容はこちら

1月14日放送

JAおいらせ ～にんにく～

12月16日、JAおいらせの組合員・種市精一さんの作業場（三沢市）で撮影を行った。

種市さんは「カレーに皮を剥いてまるごと入れて調理するのがおすすめ。スタミナ満点。」と紹介した。



放送内容はこちら



▲にんにくを紹介する種市さん㊤

1月28日放送

JA八戸 ～寒締めちぢみほうれん草～

1月18日、JA八戸の組合員・畠山賢寿さんのほ場（新郷村）で撮影を行った。

畠山さんは「寒さに当てると身を守ろうとして葉が縮む。この縮みが美味しい証拠」と紹介した。



放送内容はこちら



▲寒締めちぢみほうれん草を紹介する畠山さん㊤

2月11日放送

JAゆうき青森 ～アピオス～

11月5日、JAゆうき青森の組合員・中岫均さんのほ場（七戸町）で撮影を行った。

中岫さんは、「皮つきのまま蒸して食べるのが一番美味しい。サラダやみそ汁にも」と紹介した。



放送内容はこちら



▲アピオスを紹介する中岫さん㊤

2月25日放送

JA十和田おいらせ ～ながいも～

2月16日、JA十和田おいらせの十和田野菜センター（十和田市）において組合員・寺澤和夫さん取材した。

寺澤さんは「寒いと食べる機会が減るが、是非熟成されたものを味わって欲しい」と紹介した。



放送内容はこちら



▲ながいもを紹介する寺澤さん㊤

3月11日放送

JA十和田おいらせ ～にんにく～

2月16日、JA十和田おいらせの八郷長芋センター（十和田市）において組合員・戸館快之さん取材した。

戸館さんは「土づくりが重要。土壌診断を行い、たい肥を入れ毎年土づくりを行っている」と紹介した。



放送内容はこちら



▲にんにくを紹介する戸館さん㊤

フラッシュユ



JA青森

オンラインでは県内初 部会総会 (3/2)

JA青森ミニトマト部会は、2021年度通常総会を開いた。部会の総会をオンラインで開くのは県内では初。総会後に行った講習会でもZoomを使用した。部長や事務局を務めたJA職員らは、Zoomを使って同JA羽白野菜集出荷センターから総会資料や音声を配信。我満智部会長は「今の世の中での状況にあった形でオンライン開催という選択をした。今後はますます必要性が増していくと思うので、音声や映像、参加者同士のやり取りがもう少し上手くできるようになるといい」と話した。

JAごしょつがる



女性部種子説明会 菜園づくりに意欲 (3/11)

JAごしょつがる女性部松島支部は、五所川原市水野尾コミュニティ消防センターで、「種子説明会」を開き、女性部員13人が参加した。毎年、春からの菜園づくり準備のために開催している。(株)渋谷種苗店の澁谷哲平さんらを講師に招き、レタスや大根などさまざまな野菜の品種特性や、肥料、薬剤散布について学んだ。

早い雪解けに期待 (3/2)

JA相馬村は、管内数カ所です無人ヘリコプターによる消雪剤の散布試験を実施した。大雪となった今年は、未だ100センチ程の積雪を観測している園地もあり、消雪剤を散布することで、雪解け効果の促進と省力化を狙う。無人ヘリを操作したオペレーターは「色々な種類の消雪剤があるが、今回試験したものは比較的溶け出しと広がり早い。効果に期待できる」と話した。



JAつがるにしきた

水稻栽培のポイントを学ぶ (3/1)

JAつがるにしきたは、深浦事業所で水稻栽培講習会を開き、生産者24人が参加した。西北地域県民局地域農林水産部農業普及振興室分室の担当者が「浸種期間10日間は最低温度に注意するように」など今後の栽培管理についてアドバイスした。また各メーカーより一発肥料や除草剤について説明があった。



JAつがる弘前

今年もおいしいリンゴ召し上がれ

港区の児童へ贈る (3/1)

JAつがる弘前は、2010年から毎年「福祉リンゴ」を東京都港区に贈っている。今回は、「サンふじ」「王林」それぞれ50ケース（1ケース36玉入り10kg）と、「サンふじ」「王林」の詰め合わせ5ケース（18玉入り）を贈呈し、区内の小・中学校の給食で児童らに提供された。昨年に続き、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、区役所を訪れての贈呈は行われず、市場を通して届けられた。学校給食の充実に寄与したとして、武井雅昭区長から感謝状がJAに授与された。

JA相馬村





JA津軽みらい

農水大臣賞の受賞を報告 (3/4)

JA津軽みらい石川基幹支店管内の大湯知巳さんは、JA本店を訪れ、第23回全国果樹技術・経営コンクールで最高位の農水大臣賞を受賞したことを工藤俊博組合長に報告した。大湯さんは日本で初めて「カトリんご」に取り組み、その総生産量の8割を「カトリんご」用として自ら製造・販売する。大湯さんは「絶対に『カトリんご』を成功させたい一心で頑張ってきた。これからも、一緒に頑張ってきた息子たちと同じ夢に向かって進んでいきたい」と話した。



JAゆうき青森

ドローンで融雪剤散布！ 実演講習会開催 (3/4)

JAゆうき青森六ヶ所営農センター営農購買課は、同地区青年部員を対象に、ドローンでの融雪剤散布の実演講習会を開き、6人が参加した。今回は春掘りナガイモのほ場で実演。ドローンの機種は『DJI製 AGRAS T30』で、融雪剤『雪消しファイター』を10aあたり45kgを目安に散布した。受講した部員は「散布時間や散布精度に納得いく内容であった。導入を検討したい」と感想を述べた。



JA十和田おいらせ

旬の味覚を堪能して

ナガイモレシピコンテスト優勝者決定 (3/17)

JA十和田おいらせが開いた「ながいもレシピコンテスト」の最優秀賞が決定した。全国各地から57点の応募があり、JA役職員が見た目や手軽さ、アイデア性などから審査。栃木県在住の川村葉子さんが応募した「長芋のカルパッチョ」が1位に輝いた。吉報を受けた川村さんは「ナガイモは調理の仕方で違った食感が楽しめる。今回のカルパッチョはシンプルだけど歯ざわり良く、さっぱりと食べられるのでぜひ試してほしい」と喜んだ。



JAおいらせ

JA育苗施設で播種作業盛んに (3/25)

JAおいらせ育苗施設では農家から注文された苗の播種作業が順調に進んでいる。5棟のハウス内では、ソラマメ、キャベツ、ハクサイ、ネギなどの苗があり、順次農家へ供給している。農家には3月中旬から4月中旬にソラマメの苗の配布を始め、今後キャベツなど約35,000本を供給する予定。

野菜総合部会総代会開催 (3/4)

JA八戸野菜総合部会は、きざん八戸で「JA八戸野菜総合部会第13回通常総代会」を開き、部会役員・総代など40人が出席した。中里光朋部会長は「天候不順による品質低下や出荷量の減少、また、コロナ禍により価格が低迷し厳しい販売結果となった。来年度は、部会活動が活発に活動できるよう願っている」と挨拶した。野菜総合部会では、22年度取扱数量17,475トン、販売金額64,665万円を目指す。



JA八戸

2021年度協同組合4団体合同研修会

青森県内の協同組合4団体で構成する「協同組合間提携青森県実行委員会」は3月9日、ウェブ会議システムを活用し、青森県生活協同組合連合会など4団体の他、県内7JA・連合会から70人の職員が参加した。

(一社)SDGs市民社会ネットワークの新田英理子理事・事務局長が講師を務め、SDGs目標のために、協同組合活動が実現できることについて説明した。

新田理事・事務局長は、協同組合の強みは行政や企業にはない『共感』にあるとし、「組織も個人も、相手の特徴や役割を理解したうえで、“あえて”立場を超えて『おせっかいを焼く』ことこそ、持続可能な社会づくりに向かっていく」と強調して述べた。

同研修会は、協同組合の理念や使命、社会的役割などについて相互理解を深めることを目的に実施している。研修会を通じて、協同組合間での連携方法を検討していく。



▲SDGsの意義を共有する新田理事・事務局長（青森市で）

お米・ごはん食の理解醸成へ 元気モリモリ青森のお米公開トーク

JAグループ青森と県農協農政対策委員会は3月13日、YouTubeライブ配信で「元気モリモリ青森のお米公開トーク」を実施した。視聴回数は、県内だけではなく、東京・名古屋・大阪・福岡などで合計660回に上った。

第1部では、料理研究家のきじまりゅうたさん

が健康的なごはん食について講演した。米の研ぎ方や適切な水の配分調整の他、フライパンを使ったお米の炊き方について説明。料理研究家として、料理を作る側だけではなく、食べる側の知識・マナーの理解醸成に努めたいと述べた。

第2部では、お笑い芸人の小島よしおさんが、歌や定番の芸で登場。その後、フリーアナウンサーの中村美穂子さんとフリートークを行った。視聴者からの質問に答えながら、ごはんに合うおかずについてなどコミカルに紹介。最後は「あおもり」にちなんだ、あいうえお作文で締め括った。

JA青森中央会の雪田徹会長は「お米は国民にとってなくてはならない主食。イベントを通して、ごはん食の魅力と健康について改めて考えていただければ」と願いを述べた。

ライブ配信の動画は、イベント開催から1ヶ月間の限定配信を行う。公開は4月12日までを予定している。



▲中村さんの質問に答える小島さん（青森市で）

JA教材本贈呈式

JA青森中央会とJAバンク青森は3月30日、青森市の県教育委員会を訪れ、小学校5年生向けの教材本を寄贈した。教材本は県内の農林水産団体などが食農教育用に編集・発行する「いのちはぐくむあおもりの農林水産業」とJAバンク発行の「農業とわたしたちの暮らし」の2種類。4月初旬までに県内の小学校と特別支援学校などへ、それぞれ1万300部を配布する。

JA青森中央会の松澤秀治部長は「農林水産業への理解や食農教育にご活用いただきたい」とし、農林中央金庫青森支店の清水雅夫支店長は「農業

が地域の伝統や文化に結びついていることを学んでもらえればうれしい」とそれぞれ願いを述べた。

教材本を受け取った県教育委員会学校教育課の高橋英樹課長は「教材本は児童が郷土に誇りを持ってもらうためには必要なもの。わかりやすい図表・写真で、児童が興味を持って活用できるものとなっている。大切にに使わせていただきたい」と感謝の言葉を述べた。

教材本の贈呈は、地域農業や農業の多面的な役割への理解促進の一助となるよう、JA青森中央会は1992年度から、JAバンク青森は2008年度から行っている。



▲松澤部長④と清水支店長④から教材本の贈呈を受けた高橋課長④（青森市で）

令和4年度 JA青森中央会配置図（令和4年4月1日付）

代表理事会長	雪田 徹
副会長理事	齊藤 勝徳
常務理事	小山 主税

㈱農協電算センター	
副審議役	棟方 渉

みのり監査法人	
審議役	田村 幸一
副審議役	渡辺 信義
調査役	平田 佑介
副調査役	木村 稔喜
	新高 保俊彦（囑託）
	高村 司（囑託）

総務企画部	
部長	松澤 秀治
次長	新谷 優
総務課	
課長	渋谷 亮
調査役	相馬 一之（全共連県本部より出向）
	中村 勇穂
	山形 麻美（全農県本部より出向）
	小松 宏之（囑託）
	安部 はるか（囑託）
	佐藤 和雅子（派遣）
企画管理課	
課長	小枝 憲子
副調査役	工藤 咲美
	外崎 夢子（新採用）
	葛西 美雪（囑託）

農業対策部	
部長	野呂 文人
次長	小島 睦男
	山田 真佐子（囑託）
農業支援課	
課長	阿保 潤司
考査役	石田 隆徳（全農県本部より出向）
	工藤 有香
	林 和也
	武田 健吾
	田村 恵太郎（新採用）
	中田 拓彦（囑託）
	吉田 裕一（全農県本部より出向）
組織農政課	
課長	山田 久雄
考査役	齋藤 雅志（農協観光より出向）
	山内 麻衣子
	村上 雄大
	舛館 花林
	小原 双葉
	三上 賢悦（囑託）

経営対策部	
部長	秋田 弘行
次長	山田 潤（津軽地区JA担当）
専任副審議役	西村 健（県南地区JA担当）
	市川 陽子（囑託）
経営企画課	
課長	一戸 和雄
考査役	相馬 崇志
副調査役	佐藤 悠
	西館 佳加
	小堀 晃生
	古川 智丈（新採用）
教育研修課	
課長	蒔 苗文彦
調査役	木村 友子
	成田 泰菜（新採用）

行事（4/10～5/10）	
4月	
12～13日	新採用職員研修会（マナー、コミュニケーション編）（県農協会館）
12日	青森県農協青年部協議会通常総会（青森県総合社会教育センター）
13日	県参協定例会（県農協会館）
20日	県JA女性協通常総会（県農協会館）
20日	県JA女性協部長・支部長・事務局合同会議（県農協会館）
26日	内部監査初任者研修会（県農協会館）



JAバンク資産形成・運用デビュー特典のご利用を！

JAバンク青森では、2022～2024年度のJAバンク青森中期戦略において、「農業」「暮らし」「地域」の各領域で金融仲介機能の発揮に取り組むこととしており、くらしの領域における資産形成サポートの一環として、農業者年金またはiDeCoの新規加入者向けのデビュー特典を実施する。

主な内容は次のとおり。詳しくはお近くのJA窓口まで。

【期間】

2022年4月1日～2025年3月31日（予定）

【対象】

期間中に農業者年金またはiDeCo（※）に新規加入された方でJA口座より掛金の拠出が確認できた方

【特典】

JA全農「ニッポンエール」のグミ・ドライフルーツをプレゼント

農業者年金 グミ2袋・ドライフルーツ6袋

iDeCo グミ8袋

（※）iDeCoは、取扱JAのみ対象となります。



▲農業者年金向けのチラシ

テム関連業務をJAシステム企画班に集約。

- ③ 健全化にかかる個別JA指導業務をJA指導相談班へ集約。
- ④ JA推進実践支援プログラムのうち営農経済プログラムをJA貸出推進班へ集約。
- ⑤ 農業金融センター機能の農業メインバンク業務をJA貸出推進班に移管。

農林中央金庫青森支店で機構改正を実施

農林中央金庫青森支店は、「JAバンク青森中期戦略（2022～2024年度）」におけるJAへのサポート力強化等を見据え、支店内のJAバンク部門を中心に機構改正を行い、これまで複数班にまたがっていた業務を集約するなど、より効果的な業務運営の実現を目指していく。

主な改正点は、次のとおり。

- ① JAサポート班とJA企画推進班を統合し、「JAリテール推進班」を立ち上げ。企画からJA実践支援までを一元的に対応する。
- ② JA指導相談班からシステム関連業務を切り離し、「JAシステム企画班」を立ち上げ。支店が担うシ

機構改正の内容（赤字が変更箇所）		農林中央金庫
	現行	2022年4月以降
JAバンク 相談班	営内相談（営内相談） 営外相談（営外相談） 営外相談（営外相談） 営外相談（営外相談） 営外相談（営外相談）	JAバンク 相談班
JA サポート班	JAサポートの窓口機能 JA推進実践支援プログラム推進班	JAリテール 推進班
JA企画 推進班	JA推進実践支援プログラム推進班 JA推進実践支援プログラム推進班 JA推進実践支援プログラム推進班	JAリテール 推進班
JA貸出 推進班	貸出推進（生活資金支援） JA貸出推進（生活資金支援） JA貸出推進（生活資金支援）	JA貸出 推進班
JA指導 相談班	健全化指導（営外指導） 営外指導（営外指導） 営外指導（営外指導）	JA指導 相談班
		JAシステム 企画班

令和4年度 農林中央金庫青森支店配置図 (令和4年4月1日付)

支店長 清水 雅夫

副支店長 堀井 輝彦						
コーポレートサービス班			営業第一班 (017-762-4403)		営業第二班 (017-762-4404)	
(総務：017-762-4400)		(窓口：017-762-4407)	(系統決済：017-762-4409)			
次長 太田 康佳	次長 太田 康佳	次長 太田 康佳	次長 山口 将治	次長 柳沼 真吾		
沢田 拙子	鹿内 之	木村 真喜子	坂 達徳	次長 山口 将治		
土岐 義和	相馬 晶子	辻本 恵美子	大水 秀之	簡野 弘毅		
新谷 則子	葛西 瑠子	鹿島 美奈	鳴海 修吾	石原 大地		
奈良崎 玲子	永井 麻美子	猿賀 香澄	木村 亜子	工藤 健斗		
野呂 誠	小鹿 篤子	藤原 雪乃	渡邊 裕子	岩本 真一郎		
		貴田 航一朗	有本 翔	木下 諒		
		山本 美弥子	對馬 萌	平川 遼		
			三上 千夏			
			三上 賛			
			神 大貴			
			豊川 一彦			

副支店長 大久保 正也				
J Aバンク総括班 (017-762-4410)	J Aリテール推進班 (017-762-4415)	J A貸出推進班 (017-762-4402)	J A指導相談班 (017-762-4417)	J Aシステム企画班 (017-762-4414)
次長 貴島 陽介	次長 福島 毅之	次長 鶴賀 学	次長 木下 春彦	次長 山崎 伴
成田 結香子	長内 一興	新潟 修	秋田谷 耕子	小川 奨
吉川 雅也	葛西 智恵美	小倉 庸幸	鈴木 学	滝田 浩史
市村 百香	長内 昇平	渋谷 拓治	粟谷 秋博	對馬 武
戸田 光祐	上北田 春紀	中澤 京義	最上 静	船橋 佳於
大橋 拓司	有松 薫	鷲尾 祐輔	小浜 雅史	坂 純一
	岡田 拓斗	竹内 一智	須藤 明日香	
	岩谷 謙司	山根 啓一	野上 賀生	
			小笠原 茂	

令和4年度 株式会社青森県農協電算センター配置図 (令和4年4月1日付)

取締役センター長 鎌田 政行

副センター長 工藤 憲明					
総務部 (017-729-8460)		業務部 (017-729-8540、8735)		管理経済部 (017-729-8500)	
部長 工藤 憲明	部長 濱中 大介	諏訪 智徳	部長 天内 賢司		
部長代理 中野渡 郁子	部長代理 菅原 広大	岡田 圭裕	部長代理 小館 一浩		
今 薫	主任 久保田 和人	清野 恵祐	主任 佐藤 晃徳		
秋村 樹	主任 佐藤 全孝	小鷹 悠輔	主任 棟方 渉 (嘱託)		
	副調査役 畑山 順彦	高田 海	調査役 関 洋幸		
		今井 正	佐々木 将		
		新宅 博寿	小田桐 紗織 (嘱託)		
		高橋 慶至	長内 佑也		

行事 (4/10~5/10)

農林中央金庫	5月	
4月	10日	統一事務手続研修〈貸出編〉(県農協会館)
14日		J Aバンク青森運営協議会専門委員会(ウェブ会議)
19日		J Aバンク青森推進大会(ホテル青森)
	農協電算センター	
	4月	
19日	12~28日	信用事業入門研修(県農協会館)
27日		ローンセールス研修(県農協会館)
		窓口端末機操作研修(貯金・OTM)・6回開催(県農協会館)

令和4年度 職員配置一覧

県本部長	桑田 徳文
副本部長	笹森 俊充
副本部長	成田 具洋

管理部

部長	(成田副本部長事務取扱)	
次長	沼田 友行	
臨時	横山 美智子	
企画管理課	課長	今本 和寿
	課長代理	石山 伸吾
		加藤 彩乃
		加藤 優和
	嘱託(再雇用)	山添 泰介
コンプライアンス課	課長	前田 元哲
	嘱託(再雇用)	岡元 るみ子
総務人事課	課長	種市 雅彦
	課長代理	平館 慶徳
		高橋 結香
		渡邊 壘人
	嘱託	工藤 里佳
	臨時	工藤 かおる
広報宣伝総合課	臨時(短期)	伊藤 達也
	課長	葛西 進彦
	課長代理	岩崎 崇仁
		岡本 雅央
	(新採用)	鶴谷 真央
		三浦 真由子
	所長	高橋 良豪
アグリショップ青森店	臨時	高橋 幸子
	臨時(短期)	山田 真貴子

米穀部

部長	長内 敏也	
次長	相場 仁	
米穀総合課	課長	齊藤 仁志
	課長代理	大橋 綾子
		田村 一
		工藤 永真
	嘱託	鹿内 克之
	嘱託	薬師神 竜広
	臨時	風晴 清政
米穀流通課	臨時	深堀 真紀子
	課長	乙部 高雄
	課長代理	鹿内 昭智
		成田 淳子
		石川 達也
		太田 健朗
		竹村 歩己
	(新採用)	松田 秀平
米穀販売事務所	嘱託(再雇用)	奈良岡 博治
	臨時	齊藤 美樹子
	所長	北向 佳介
大阪駐在		山形 壮平
		大場 春樹



パルライス販売課	課長	村田 武志
	課長代理	増田 勝秋
		森 伸治
		泉 谷和美
		黒滝 京
		佐々木 隼
	嘱託	新野 勇太
	臨時	岩下 愛
	所長	木村 伸夫
		前田 康宏
		越田 茂輝
	嘱託	山中 大資
	パルライスセンター	嘱託(再雇用)
臨時(短期)		三上 秀茂
臨時(短期)		大瀬 寛士
臨時(短期)		奈良 学
臨時(短期)		川村 惇平
	派遣	佐渡 一平

りんご部

部長	川村 浩史	
りんご課	課長	福嶋 静
	課長代理	西口 康朗
		相馬 洋一
		山形 拓
		宮塚 暢子
		葛西 逸平
		柳町 周
		織笠 光平
	(新採用)	齊藤 凌
	臨時	蝦名 牧子

やさい部

部長	坂本 浩	
やさい花き課	課長	竹達 広治
	課長代理	向井 勝美
		金澤 展嗣
		千田 佳央
		梅村 佳子
		苔米地 勇誠
		澤田 勇生
		工藤 亘晟
		成田 こな美
	嘱託(再雇用)	石川 浩人
	臨時	佐藤 彩
	臨時	宮腰 陽子
	所長	秋元 陽貴
やさいパッケージセンター		岡山 康博
		宮本 昌浩
		山形 雅一
		原 悠基
		安田 真悟
	臨時(短期)	松村 沙織

青果販売事務所

東京青果販売事務所	事務所長	岩 測 弘 安
		石 塚 照 崇
		成 田 誠 識
名古屋青果販売事務所	事務所長	前 田 晃 良
	臨時	林 文 子
	事務所長	大 柴 文 孝
大阪青果販売事務所	臨時	石 井 裕 貴
		浅 野 ひろみ
	事務所長	高 橋 哲 也
		亀 田 智 久
	臨時	山 内 大 輔
		浜 野 千 恵
福岡駐在		佐々木 正至
	臨時(再雇用)	矢野 良美

畜産酪農部			
部長	三 湯 讓		
畜産酪農課	課長	福 士 文 浩	
	課長代理	枋 木 清 光	
		大久保 義 男	
	(新採用)	赤 石 健 太郎	
	嘱託	今 裕 也	
	嘱託	工 藤 絵 里	
畜産事業センター	嘱託(再雇用)	中 谷 廣 幸	
	所長	七 戸 貴 資	
		今 勝 勝	
		今 村 卓 嗣	
		杉 田 拓 哉	
牛乳冷却処理所	臨時	加 賀 久 美子	
	所長	駒 井 博 史	
		織 笠 豊	

営農購買部			
部長	長 内 暁		
次 長	小田 桐 聡		
	三 浦 強		
臨時(短期)	渡 邊 泰 恵		
営農対策課	課長	岩 崎 哲 也	
	課長代理	佐々木 勉	
		倉 内 恒 明	
		今 沙 織	
		盛 陽 祐	
		土 岐 鈴 夏	
土壌分析センター	嘱託(再雇用)	藤 井 智 秀	
	所長	(岩崎課長事務取扱)	
肥料農業総合課	臨時	田 中 真 紀子	
	課長	藤 田 匡 臣	
	課長代理	成 田 巨 樹	
		米 塚 幸 子	
		中 谷 五 美	
肥料農業推進課		三 上 功 多	
	(新採用)	石ヶ森 海 斗	
	課長	佐々木 浩 蔵	
	課長代理	中 谷 貴 昌	
		須 藤 雅 樹	
		田 中 嗣 巳	
		木 立 将 志	
		長谷川 欣 哉	
		川 村 光 博	
		岡 田 大 佑	
		岡 村 達 也	
		兼 平 莉 里佳	
	臨時	大 杉 梨 加子	
	臨時	石 澤 早 希	
	臨時(短期)	木 村 成 子	
臨時(短期)	藤 島 祥 子		
八戸駐在		上 平 章 弘	
	所長	齋 藤 幸 樹	
	臨時	成 田 文 朋	
	臨時	齋 藤 浩	
東青地域資材配送センター	臨時	野 呂 順 一	
	所長	松 江 佳 博	
	臨時	熊 野 忠 志	
	臨時	工 藤 弘 貢	
三八地域資材配送センター	臨時(短期)	小 泉 誠	
	課長	泉 谷 剛	
	課長代理	八 戸 俊 輔	
		長 尾 浩 誠	
		下 山 真 治	
		小田 桐 泰	
		佐 藤 正 信	
		平 澤 亜 美	
農機農業資材課		津 島 勲	
	臨時	横 山 由 果	
		長 尾 和 朋	

生活課	課長	桑 田 和 仁
	課長代理	佐 藤 貴 洋
		中 川 洋 平
	嘱託(再雇用)	今 正 守
	臨時	前 田 千 賀子
	臨時	新 藤 歩
	嘱託所長	成 田 建 生
		武 井 将 太郎
	臨時	野 月 仁 光子
	所長	畑 山 俊 一
所長	(畑山所長事務取扱)	
所長	岩 田 哲 欣	

本 所		
総務人事部(人事企画課)		佐 藤 陽 子
耕種資材部(包装資材課)		小 枝 祐 斗
耕種総合対策部東北営農資材事業所(TAC・生産対策課)		奈良岡 寛 久
施設農住部東北広域施設事業所(青森施設事務所)	所長	(友田東北広域事業所副所長事務取扱)
		齋 藤 憲 史
		笠 井 洋 介
	嘱託(再雇用)	小 山 内 隆 浩
総合エネルギー部 東北エネルギー事業所(青森推進課)	臨時(短期)	中 村 美 華
	課長	高 橋 次 郎
	課長代理	山 崎 隆 行
		伊 藤 千 尋
		白 川 巧
		飯 田 裕 樹
	臨時	赤 星 理
	唐 牛 由 美子	

出 向		
J A青森中央会総務企画部		山 形 麻 美
J A青森中央会農業対策部		石 田 隆 徳
J A青森中央会農業対策部	嘱託(再雇用)	吉 田 裕 一
青森県農協会館管理委員会	嘱託(再雇用)	棟 方 清 治
青森県産米需要拡大推進本部(公社)青森県農産物改良協会		関 谷 龍 一
		和 嶋 靖 晃
(一社)津軽中央共同倉庫	臨時	泉 谷 慶 志
		佐 藤 仁 勝
王子製袋(株)	嘱託(再雇用)	齋 藤 聡
昭和ボックス(株)	嘱託(再雇用)	梶 浦 治 彦
(公社)青森県青果物価格安定基金協会		川 村 恵
(一社)上十三広域農業振興会		平 山 智 樹
J A全農北日本くみあい飼料(株)		鈴 木 真 規
東北生乳販売農業協同組合連合会		佐々木 将 志
青森県牛乳普及協会	臨時	奥 本 瑠 美
片倉コープアグリ(株)	嘱託(再雇用)	福 士 学
小野田化学工業(株)	嘱託(再雇用)	工 藤 勲
日本肥種(株)		泉 谷 勝 明
クマイ化学工業(株)	嘱託(再雇用)	兼 平 俊 美
北東北スカイテック(株)		最 上 進 一
J A三井リース(株)		工 藤 彩 子
全農物流(株)		加賀田 誓 也
		高清水 祐 一
青森三八五流通(株)	嘱託(再雇用)	白 戸 康 浩



行事(4/10~5/10)

5月
9日 農産物検査員育成研修開校式
(県農協会館)

令和4年度 職員配置一覧

<令和4年4月1日付>

本部長	福士 雅巳
-----	-------

副本部長	沼田 博文
------	-------

管理部

部長	中谷 勝
次長	福田 光明
企画管理課	
課長 (次長兼務)	佐藤 薫
	菊池 まき子 (嘱)
総務人事課	
課長	工藤 学
	岩谷 拓朗
	三上 幸代
	花井 由美
	佐藤 光祥 (嘱)
	野宮 里美 (嘱)

事業推進部

部長	葛西 真司
次長	七戸 俊文
推進企画課	
課長	織笠 勝則
	工藤 修
	大水 伸彦
	松本 詩音乃
	坂井 貴子
推進支援課	
津軽地区担当 (青森・五所川原)	
課長	田中 学
	佐藤 昂平
	戸川 真友美
津軽地区担当 (弘前)	
課長	櫛引 大介
	倉本 一仁
	今 陽子
県南地区担当	
課長	相坂 康人
	工藤 雅士
	舘田 卓磨
	高松 珠美
	佐々木 舞 (嘱)
地域貢献課	
課長	須藤 巧
	三浦 友美
	土田 華鈴 (嘱)

代理店事業課	
課長	水嶋 誠
	藤田 真紀子
	福井 美奈未 (嘱)

業務部

部長	中野 博人
次長	白戸 康弘
業務総合課	
課長	前原 達明
	千葉 幸喜
	工藤 まどか
	櫛引 星希
	亀田 朝子
	古川 浩子
体制整備支援課	
課長	森本 正宝
	中野 雅寿
	小倉 倫子 (嘱)
建物査定課	
課長	坂本 一
	石岡 一弥
	長内 克文
	工藤 真由美
	村川 真悠
	大澤 公男 (嘱)
	坂本 公利 (嘱)
	西田 一明 (嘱)
	佐藤 朋子 (嘱)

自動車損害調査部

部長	佐野 茂
次長	太田 学志
交通事故相談所長 (部長兼務)	
交通事故相談所 参与 木村 勝見 (嘱)	
自動車損調総合課	
課長 (次長兼務)	小林 理 (審)
	吉崎 麻子

青森中央自動車損害調査 S C	
S C長	吉井 基郎
課長	矢野 慶明
	細川 聖司
	中村 琢也
	安部 龍一
	福井 恵
	漆坂 等 (嘱)
	新岡 信也 (嘱)
	升田 昭人 (嘱)
	川村 巳智仁 (嘱)
	庄司 豊 (嘱)
	澤田 一雄 (嘱)
	小田桐 清光 (嘱)
	岡本 善光 (嘱)
	清水 七恵 (嘱)

弘前自動車損害調査 S C	
S C長	吉川 勉
課長	室谷 栄司
	沼山 定継 (審)
	蛭名 茂和
	鈴木 幸子
	工藤 百恵
	今 拓道 (嘱)
	田村 準人 (嘱)
	三上 晃 (嘱)
	平山 暢寿 (嘱)
	齋藤 洋一 (嘱)
	小山内 和久 (嘱)
	鎌田 真那美 (嘱)
	山賀 真優美 (嘱)
	常田 愛 (嘱)

青森県南自動車損害調査 S C	
S C長	島元 貢
課長	沼山 正幸
	沼田 邦広
	工藤 伸行
	菊地 雄大
	白山 郁実
	深沢 隆
	若松 孝文 (嘱)
	阿部 重宣 (嘱)
	佐々木 政敏 (嘱)
	福田 千恵美 (嘱)
	日野口 かおり (嘱)
	藤井 直人 (嘱)
	駒井 秀樹 (嘱)
	星 明廣 (嘱)

出 向 等

(理事長特命) 内部監査役	鳥谷部 光雄
(全国本部東北地区業務センター) 課長	成田 和智
(")	小比類巻 淳子
(")	小形 憧
(")	小湊 祥太郎
(")	佐藤 杏倫
(管理部付青森県農協中央会出向)	相馬 一之

J A 共済全国小・中学生 交通安全ポスターコンクール伝達式の開催

J A 共済連青森は11日、南部町立福地中学校で J A 共済全国小・中学生交通安全ポスターコンクールの伝達式を行った。

伝達式では、J A 共済連青森福士本部長からお祝いの言葉が述べられ、警視庁長官賞を受賞した川守田茜さんに賞状と賞品が手渡された。

受賞した川守田茜さんは「交通事故の減少に繋がればいいなという思いで作品を作った。中学校最後の年に大きな賞を受賞出来てとても嬉しい」と述べた。



▲左から福士本部長、川守田茜さん、浅石英一校長先生

行事 (4 / 10 ~ 5 / 10)

4 月

- 11~14日 新任 L A 研修会 (青森県農協会館)
- 15日 Lablet's 操作研修会 (新任 L A コース) (青森県農協会館)
- 18日 Lablet's 操作研修会 (新任スマサポ・担当者コース) (青森県農協会館)
- 19~22日 共済基礎知識研修会 / 事務手続きコース (はまなす会館)
- 25日 自動車共済事故受付・現場急行研修会 (青森県農協会館)
- 27日 安心サポーター養成研修会 (青森県農協会館)
- 25~28日 共済基礎知識研修会 / 共済端末機操作コース (青森県農協会館)

5 月

- 10日 収納・共済資金管理事務基礎研修会 (はまなす会館)

実践 農業者支援

令和3年度 農業者支援事業の総括について

農業者の高齢化等により農業従事者は減少の一途を辿っている。さらに、1経営体当たりの耕作面積が拡大することにより、農業労働力の不足が顕著になっている。

そのような中、JAの取組みを補完・支援すべくJA青森四連で実施している農業者支援事業のなかで、重点的に取り組んでいる新規就農者確保対策、農業労働力確保対策に関する令和3年度の取組みを総括する。

1. 本県の農業従事者数等の状況

(1) 農業従事者数の減少と高齢化の進展

本県の基幹的農業従事者数は、令和2年と10年前の平成22年を比較すると20,526人減少、1年間当たりでは約2千人の減少となる。また、基幹的農業従事者の平均年齢は、この10年間で2.2歳高くなっている。

(表1) 本県の基幹的農業従事者数と平均年齢の推移 (単位：人、歳)

年	平成22年	平成27年	令和2年
基幹的農業従事者数	68,609人	58,222人	48,083人
平均年齢	63.2	64.3	65.4

出典：農林水産省「農林業センサス調査」

(2) 新規就農者数の状況

新規就農者数は平成24年度以降200人を上回り、令和2年度は303人となっている。

法人就農は増加し、独立自営は横ばいとなっている。

(表2) 本県の新規就農者数の推移 (単位：人)

年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
新規就農者数	246人	277人	256人	292人	303人

2. 令和3年度の実績

(1) 新規就農者支援の取組み

① JA版「新規就農者支援パッケージ」の策定支援

2JAにおいて、新規就農希望者が取組み易い作物に特化した支援内容や経営収支目標を盛り込んだ「JA版新規就農者支援パッケージ」の策定を支援した。

② りんご経営における第三者承継の実践支援として、令和4年4月に就農した新規就農者に対し、青年等就農計画の策定や旧農業次世代人材投資事業の申請について、JAとともに支援した。また、農業技術習得のため、弘前大学と連携し、令和3年4月から令和4年1月まで計6回栽培技術現地研修会を開催した。

(2) 農業労働力確保の取組み

JAと県連は、「農業労働力確保対策作業部会」を中心に検討し、10JAの無料職業紹介事業の機能強化に向けた取組みを企画・実施した。

なお、令和元年度から令和3年度までのJAにおける求人数、求職数、マッチング数は表3のとおりであるが、農家・求人数に対するマッチング率は横ばい状況である。

(表3) 年度別求人数、求職数、マッチング数の推移 (単位：人、件、%)

年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度 (4月～2月)
求人数	388	805	465
求職者数	214	447	221
マッチング数	113	229	132
求人数に対するマッチング率	29.1	28.4	28.4

- ① 農作業体験会の企画・実施
農家とのマッチングにつなげるため、農作業に携わったことのない求職予定者や農作業従事に興味のある人を対象に、農作業体験会をＪＡつがるにしきたの協力を得て２回実施した。
- ② 援農システムの構築・実践
 - ア 県内企業との連携
平成30年度から農家組合員と企業や団体等のボランティアを結び、援農を通じた農業への理解醸成と労働力不足への対応を目的に実施した。今年度は５ＪＡ管内で延べ136人のボランティアが援農活動に参加した。
 - イ 県外企業との連携
日本航空乗務員による援農活動（りんご葉取、収穫作業）を希望する４ＪＡの協力を得て実施し、延べ222人が参加した。
 - ウ 観光業者従業員副業を目指した農作業体験会の企画
県、（株）農協観光と連携し、観光業者従業員の副業を目指した農作業体験会をＪＡつがるの弘前およびＪＡ八戸管内において実施した。
- ③ 人材派遣会社との連携
組合員が求める「収穫期における緊急的な求職依頼」等のニーズに迅速に対応するため、パートナー協定を締結した企業との調整を行った。
- ④ 外国人材監理団体との連携
「農協請負方式」による農業・農作業実習が円滑に行われるよう、導入ＪＡに対し支援した。また、外国人材を労働者として位置づけ、雇用できる「特定技能制度」の導入を希望するＪＡに対し、登録支援機関とともに支援を行い、約90人の雇用につながった。
- ⑤ 農作業従事者募集チラシの配布
収穫作業等の農繁期にあわせ、農作業従事者募集チラシを県内三紙全購読先37万軒に折り込みした。
- ⑥ マッチングサイトを使った求職者募集
令和２年４月から、県より無償貸与を受けた「青森県農業労働力求人マッチングサイト」を本会で運営し、10ＪＡが当該サイトを活用した。なお、当該サイトの閲覧数は農繁期ではコンスタントに８千件以上となっている。

3. 令和４年度の取組み

現状、新規就農者支援対策では、モデルＪＡでの「第三者承継受入協議会」運営等の継続支援が必要であること、また、農業労働力確保対策では、求人・求職のマッチング率が依然低率であることなどから、令和４年度もこれまでの取組みの継続が基本となる。しかし、ただ単に踏襲するのではなく、組合員等のニーズを踏まえ、「新規就農者支援対策作業部会」「農業労働力確保対策作業部会」において効果的な取組みを企画し、実践する。

なお、基本的取組み内容は、目新しいものはないが次のとおりである。

（１）新規就農者支援の取組み

「ＪＡ版新規就農者支援パッケージ」策定の支援に加え、受入体制の構築や募集方法、育成計画、就農後のフォロー等の実践取組みを支援する。

農業経営承継については、第三者承継にかかる受入協議会の設立手続きや経営承継者のリストアップ等を支援するとともに、モデルＪＡでの「第三者承継受入協議会」の運営を継続支援する。親元就農については、ＪＡでの相談体制の整備支援や行政等との連携した情報共有の仕組みを検討する。また、新規就農者を対象とした現地研修会を継続実施する。

さらに、令和４年度から見直しされた農水省による新規就農支援対策や県が令和４年度の当初予算で措置する「あおもり新農業人サポート事業」等の周知を図る。

（２）農業労働力確保の取組み

令和３年度のマッチング率は、求人に対して３割弱と農家の要望には応えきれていない。引き続き、「青森県ＪＡ農業労働力支援センター」を主体に、働き手である求職者をより多く集めるための取組み、マッチング率を向上させる取組みを検討・実施する。

さらに、ＪＡが行う無料職業紹介事業の機能強化を図るため、農作業体験会、農福連携、農業応援隊等、求職登録者増加対策をＪＡとともに取組む。

（中央会 農業対策部）



組織農政通信

くらしの活動は「組織基盤を強固」にする活動（その2） ～「わがJA」意識の醸成に向けて～

前回に続き、昨年12月15日に開催された組織基盤強化研修会より、（一社）日本協同組合連携機構 基礎研究部 主任研究員 西井賢悟 氏の講演、「わがJA」意識の醸成について一部紹介する。

1. 「わがJA」意識はJAの競争力の源泉！

「わがJA」意識の高い組合員は、

- (1) JAに不満を持ったとき、JAの利用をやめるのではなく、JAに対して不満を意見としていう。
- (2) JAの中で、自分の利益に直結しないことにも積極的に協力する。

2. 「わがJA」意識はどのように形成されるのか

(例)

これまで全くJAとの関わりをもっていなかった一人の地域住民が、この地域に家を建てるためにJAでローンを組むことになった。

※ 渉外担当者の丁寧な説明に触れて、JAにはじめて抱く感情は「親近感」のようなものである。

住宅建設後も渉外担当者の定期訪問は続き、ある時、営農センターで開催している園芸塾を紹介される。

家庭菜園を始めたいと考えていたので参加したところ、半年間に渡る固定メンバーでの活動を通じて、気が付けばたくさんの「仲間」ができていた。

さらに、修了と同時にJAの直売所への出荷を勧められ、直売所部会への加入を決意する。そこでは協同組合に関する講習もあり、JAという組織の仕組みをはじめて「理解」した。

※ JAの担当との触れ合い（対話）、JAの活動（事業）に参加（複数）することで関心、親しみが深まっていく。

3. 訪問活動の基本的意義

JAの訪問活動には、全戸訪問、渉外（LA、MA）、TAC等の職員による訪問活動があるが、取組む意義は以下のとおり。

(1) 訪問とは、現場を訪れること

現場でなければ、事実を正確に把握できない。事実を正確に把握できなければ、正しい解決策を導き出せない。

(2) 訪問とは、相手と対面すること

対面を通じて、情報と感情をやりとりする。情報のやりとりで生まれるのは「安心」、感情のやりとりで生まれるのは「信頼」。

4. コミュニケーションの きっかけとしての「支店だより」

(例)



※ 手書きや身近な情報で親近感が生まれる

5. 訪問活動を通じた戦略的組織基盤強化（事例）

（1）埼玉県のJA

以下の目標・実践を通じて、参画への誘導、「准組合員倶楽部」として組織化を検討する。

- ・ 対話運動において、渉外が「一定の事業利用がありながら、日常的に訪問していない」准組合員を訪問する。
- ・ 渉外1人当たり80人を訪問対象とし、目標は「運営参画の意思を持つ人」5人以上を目指す。

（2）神奈川県 JA

以下のシステムを活用し、准組合員をセグメント（分類）化、事業推進等に戦略的に活用する。

- ・ 「准組合員意思確認調査システム」を導入
- ・ 対話運動を通じて得た情報を入力し、事業の利用状況と紐付け、活動参加情報を入力する。

6. 活動と「わがJA」意識の関係

（1）活動を三つのタイプに分類

- ・ 不特定多数型活動・・・誰でも自由に参加できる単発のイベントなど
- ・ 特定少数型活動・・・固定メンバーで一定期間継続的に行う活動
- ・ 組合員組織活動・・・生産部会、女性部、青壮年部など

（2）「JAの活動に参加してどのような変化があったか？」について、組合員にアンケートをとった事例から、以下の回答（タイプ別）を得た。

※ タイプにより、回答の傾向には多少の違いはあるが、活動の参加により「親しみ」や「仲間」「食・農への関心」が高まっていることが確認できる。

		回答数 (人)	回答割合(%)									
			JAに対する親し みが増した	顔なじみのJA職 員が増えた	仲間が増えた	食や農への関心 が増した	地域への愛着が 増した	趣味や生きがい ができた	食や農に関する知 識が身についた	食や農に関する知 識が身についた	くらしに関する知 識が身についた	JAに関する知識 が身についた
不特定多数型活動への参加を通じた変化	正組合員	392	42.9	21.7	18.9	23.2	18.9	6.1	16.3	9.4	9.2	
	准組合員	265	37.7	15.8	9.8	21.5	21.5	6.8	9.1	10.6	5.3	
特定少数型活動への参加を通じた変化	正組合員	209	23.9	17.7	38.3	14.4	12.0	12.0	10.0	11.5	7.2	
	准組合員	152	15.8	7.2	19.7	5.3	9.2	13.2	5.3	5.9	1.3	

7. 他の事例を参考に

組合員のわがJAの意識を強くするためには、組合員との接点の確保が重要であり、接点が多く、深くなるほど、その意識も強まるようだ。県内外には、優れた事例がたくさんあることから、各JAの実態に応じた課題解決に向け、情報の提供など取組みの支援をすすめていく。

(中央会 農業対策部)

経営の窓口

リスク情報戦略への対応について

1. はじめに

系統金融機関における健全性の維持及び一層の向上を図ることを目的とした早期警戒制度が改正されたことに伴い、組合等の運営が健全かつ適切に行われているかどうかについて、行政庁として監督する上で必要な着眼点、監督手法等を定めた総合的な監督指針が令和4年1月1日に改正された。

今回は、早期警戒制度に対応した経営基盤強化を進めるにあたって、今後JAに求められるリスク情報戦略の考え方について説明したい。

2. リスク情報戦略とは

JA経営において予防型の視点に立ち、「持続可能な収益性」や「将来にわたる健全性」を勘案しつつ経営判断を行うためには、理事会において戦略リスクを「把握」、「リスクテイク」及び「リスク管理」する必要がある。

しかし、現状では多くのJAの理事会付議は、職務分掌規程により規定されており、これらはJA経営の合理的な判断のための戦略に基づくというよりも、単に過去からの積み上げにより設定されているものも多いと考えられる。また、これらは概して必要以上に肥大化していると考えられ、真に必要な経営判断のための協議に十分な時間を割けなくなっていることが危惧されている。

このことから、現在理事会に上程されている定型的な付議事項・報告事項をなるべく減らし、様々なリスクを分析したうえで理事会では重要な戦略リスクと向き合うべき態勢を構築する手法を、リスク情報戦略と位置付けている。

3. 【ステップ1】理事会付議事項、報告事項の整理

まずは、現行の理事会付議事項、報告事項について、リスク分析のうえ組合長以下に権限を委譲できるものを整理する。この分析にはワークシートを用いて行うが、理事会付議事項については形式的、実質的な判断基準、組合員の事業利用を考慮した整理を行い、報告事項については形式的判断基準やリスク、影響力、量的重要性等に基づき点数化し、合計点数の高いものから優先して報告する。

4. 【ステップ2】理事会で把握・検討すべきリスク

上記3で整理した事項のほか、これまで理事会に付議、報告されていないリスクがないか、各事業のリスクを抽出する必要がある。その際、把握すべきリスクは以下のとおり。

(1) ハザードリスク

自然災害等の外的要因に起因する災害事故のリスク

例) 自然災害による施設・機器・在庫被害

(2) オペレーショナルリスク

法律違反や不祥事など、事業活動に内在するリスク

例) 横領、不適切融資、不正契約

(3) 戦略リスク

社会情勢の大きな変化、事業の不確実性に関係したリスク

例) 配送コストの高止まり、組合員・顧客の高齢化

(4) 財務リスク

金利変動や有価証券の時価、減損など財務にかかわるリスク

例) 減損損失、貸倒れ、減価償却費の増加

5. 【ステップ3】リスク管理委員会の設置

上記4でリストアップしたリスクについて、どのレベル（理事会、リスク管理委員会、リスク管理部長、事業部長等）で何の指標に基づいてモニタリングするかを決定する必要がある。また、リストアップしたリスクのモニタリング状況の把握やリスクの洗い出しは定期的に行う必要がある。このため、常勤役員を中心としたリスク管理委員会を設置しリスクマネジメントを行う必要がある。

6. 【ステップ4】モニタリング指標の決定

モニタリング指標は、現場でイメージしやすいものである必要がある。よって、現業ヒアリングを通じて現場の業務管理に直結する指標を選択する。

<理事会でのモニタリング指標の例>

(1) 財務リスク

減損損失に対応するため、簿価〇〇億円以上の主要施設の損益

(2) 戦略リスク

中期経営計画の目標値との乖離

7. 【ステップ5】リスク対応レベルの決定

モニタリング指標の状況とその対応状況について、リスク管理委員会が確認を行い、適切な対応がなされていない場合には追加対応の指示、あるいは理事会への付議を指示するなどの対応を行う。

8. 【ステップ6】規程類の整備

上記ステップによるリスクの棚卸を行った結果、現行規程と矛盾する事項があれば見直しを行う。

9. 【ステップ7】内部監査による検証

内部監査の重点業務として、内部統制にかかる情報収集戦略の取り組みについて運用上の漏れや不具合がないか確認する。

10. さいごに

リスク情報戦略については、早期警戒制度への対応はもとより、理事会においてJAの経営基盤強化に必要な協議を重点的に行うことを目的としていることから、単に理事会付議事項、報告事項を減らすことが目的ではないことに留意が必要となる。本会としては、リスク分析ワークシートの提供を行うとともに、リスク情報戦略の取組みを支援していきたい。

(中央会 経営対策部)

令和4年3月1日～5月31日は「令和4年春の農作業安全確認運動期間」です

令和4年春のテーマ 「しめよう！シートベルト」

3月1日から「令和4年春の農作業安全確認運動」が始まりました。
テーマは『しめよう！シートベルト』です。農業機械による交通事故発生データによると、シートベルトを装着することで事故発生時の死亡率を大幅に低減できることが明らかになっています。身近な方々へのシートベルト着用の呼びかけ運動に是非ご協力ください。

【農作業死亡事故の発生状況】

農林水産省の調査結果から、令和2年の農作業事故死亡者数は270人となっています。

事故要因別では、乗用トラクターによる事故が81名（30.0%）、うち「転落・転倒」による死亡者が53人（65.4%）で最多となっています。



【青森県の事故死亡者数は全国3番目】

令和2年に発生した都道府県別農作業事故死亡者数を見ると、青森県は14名で、長野県（20名）、北海道（17名）に次いで、大分県（14名）とともに、全国3番目に多い死亡者数となっています。

青森県の農作業事故死亡者数の推移

	28年	29年	30年	令和元年	2年
青森県	13	10	6	11	14

【農作業安全確認運動の目標】

農業機械作業に係る死亡事故を、令和4年までに、平成29年比で半減する（211人→105人）目標を掲げています。

【重点推進テーマに基づいた推進活動】

- ① 農業者への声かけ運動
農業者の集まる講習会やイベントのみならず日常的な活動等においても、乗用型トラクター運転時のシートベルト装着を呼びかける。
- ② シートベルト装着効果等の理解増進
「農作業安全に関する研修」の開催の推進と、トラクター運転時のシートベルト装着効果等について周知を徹底する。

【継続的な推進活動】

熱中症による死亡事故の多発を踏まえ、農業者に直接注意喚起できるMAFFアプリを活用した「熱中症警戒アラート」の利用促進。

作業安全行動喚起のため「農林水産業・食品産業の作業安全のための規範」やGAPの周知・実践の働きかけなど。

シートベルト・ヘルメットの着用を喚起する「作業安全ステッカー」を作成・配布しています。



令和4年ステッカー
（仕事猫とのコラボ）

家族や地域みんなの声掛けで、農作業事故ゼロを目指しましょう

米農家へ1俵500円を独自助成し生産意欲喚起



当JAは3月24日、JA独自の米出荷者支援対策として、1俵(60キロ)あたり500円の助成金を支払った。対象は2021年産の「つがるロマン」と「まっしぐら」。稲作農家を支援することで、経営の安定と生産意欲向上を図る。

助成は新型コロナウイルス感染症などの影響による米価の大幅な下落を受けた措置。経済的な影響を受けている米出荷者の生産意欲の維持・向上と経営の安定を支援するため、15日開催の臨時理事会で決定した。

工藤文明代表理事組合長は臨時理事会終了後の記者会見で、「コ

ロナ禍で観光業や外食産業の時間短縮などにより、米の消費が落ち込み価格が下がっている。米出荷者が生産意欲を無くさないようにとの思いで助成することを決めた」と話した。

当JAでは昨年12月にも2品種を対象に1俵600円の概算金追加払いを行っている。

販売先・学校向けに動画2本作成し、青森県産米PR

当JA販売部直販課米穀係は、県産米の認知度向上と消費拡大を目的に、青森県産米をPRする2種類の動画を作成した。

動画の一つは、「お米ができるまで」の工程や青森県の特徴、米の品種などをクイズ形式で紹介している。動画は青森米本部（青森県産米需要拡大推進本部）のホームページで公開している他、大阪府学校給食会に提供し活用されている。

もう一つは、県産米「つがるロマン」を使用した料理動画。弘前市内飲食店協力の下、和食、フレンチ、イタリアンの3人のシェフが「つがるロマン」の特徴を活かして、おにぎり、フレンチ風ちらし寿司、リゾットを紹介するなど、さまざまな角度から県産米をPRする仕上がりとなっている。当JA産米の出荷先である大阪府や東京都のスーパーなどの店頭で放送している。

同係の出雲正人係長は「全国の消費者に県産米の魅力を伝え、消費につなげていきたい」と話す。





輝き

JA全農あおもり
りんご部 りんご課
やなぎまち あまね
柳町 周 さん

●プロフィール
2020年4月から勤務 八戸市出身 24歳

— 働くきっかけは？ —

実家がりんご農家をしており、JAグループが身近な存在であったので就活の選択肢に入りました。また、地元である青森県で仕事をしたいと思っていたのも理由の一つです。

— 業務内容を教えて下さい。 —

果樹の生産技術関係や調査関係についての業務です。

— 働いた感想は？ —

昨年度までは企画管理課で、実績管理を主な業務としていたこともあり、一日中パソコンと向き合う日々でした。入会前は外勤が多い職場だと思っていたので、ギャップを感じました。今年度からはりんご課で外勤が増えると思うので頑張っていきたいです。

— 仕事をする上で、日頃心がけていることは？ —

報・連・相を心がけています。小さな気づきでもできるだけ早めに先輩や上司に相談するようにしています。

— 特技・趣味は？ —

野球をするのも見るのも好きです。全農あおもりの野球部に所属し、試合が近くなると練習に参加しています。見るほうは、特にMLBが好きで、ここ数年はアトランタ・ブレーブスを応援しています。去年はワールドチャンピオンに輝いたので大興奮でした。

— あなたが自慢できることは？ —

サッポロ黒ラベルの懸賞でオリジナルグラスが当たったことです。おかげで飲む量が増えてわがままボディになってしまいました。

— 将来の夢は？ —

痩せてパーフェクトボディを手に入れます。

おうち活動の中で部員のつながりを意識 女性部六戸支部

JAおいらせ女性部六戸支部では冬の期間、「おうち活動」を初めて実施し、部員それぞれが家庭で料理を行った。



おうち活動を呼びかけたチラシ
(3月10日、青森県六戸町で)

事前に支部の部員118人全員にAコープ商品のコメ油とコメ油レシピ集を配付。自宅でも健康を意識した料理を楽しんでもらうことが目的。また、コメ油と地元六戸町の食材を使用したレシピを募集し、地元食材の六戸のうまいものの再発見と、情報共有で仲間とつながりを深めるという狙いもあった。

この取り組みは、国連の持続可能な開発目標（SDGs）の3「すべての人に健康と福祉を」、12「つくる責任つかう責任」に繋がる。

同支部ではこれまで、毎年冬の期間に「おかあさん講座」の中で料理教室を実施しており、楽しみにしている部員も多かったが、新型コロナウイルスの影響で、部員揃っての活動や講座が難しいため、今回の企画に至った。

部員から健康を意識した料理やおやつレシピが集まり、今後、JA広報誌やホームページでの掲載を予定している。



JA人の動き

○JA青森中央会（令和4年3月7日付）

代表理事会長

雪田 徹（新）

常務理事

小山 主税（新）

副会長理事

斉藤 勝徳（新）

代表監事

工藤 俊博（新）

催事カレンダー

開催日時	JA名	イベント名	開催場所	問合せ先		備考
				部署	電話番号	
4月17日（日） 8時50分～	JA全農あおもり	あおもり桜マラソン	青い海公園 （ブース出展）	広報宣伝総合課	017-729-8637	主催：青森市、（一財）青森陸上競技協会、あおもり桜マラソン実行委員会

みりよく発信

機械化し収益向上へ 南部町玉掛地区 中野 進也さん



機械化に向けて将来を見据える中野さん（青森県南部町）

南部町玉掛地区の中野進也さんは、現在、ネギ1畝、トマト40畝を栽培している。以前は青果市場に勤めていたが、30歳のときに農業への道に進んだ。長男だったことや将来的には実家の家業を継ぎたいという思いからだ。

「中学校卒業するまで、農家になるのが将来の夢だと話すのが恥ずかしくて嫌だった。しかし、高校時代に自信をもって農家になりたいと話す友人と出会い、農業や農家への考えが変わった」と就農への思いを振り返る。

大学時代には、トマトを専攻。他県の規模の大きさや温室ハウスでの機械化を体験できた他、管内のトマト農家にお世話になりトマトの仕立てや使っている資材を参考にすることが出来た。前職でお世話になった農家の方々との出会い、交流が今の農業経営に活かしているという。

中野さんは「自分が作った農産物を『おいしい』と笑顔で食べてくれることがやりがい。今後もおいしいと思ってもらえるものを作っていきたい」と話す。

ネギやトマトが最盛期になると、ほぼ休みなしで働いているため、適宜機械化をすすめ、作業の効率化を図り、収益を上げていくと意気込む。

（日本農業新聞・青森県版3月10日掲載）

後編 記集

定期人事異動があり4月から中央会に赴任した。大昔に中央会にきたことがある私でしたが、すでに浦島太郎状態であります。初日はPCが昼頃まで自分名義の変更作業で動かない、さっそく動かそうにもPCの操作方法が慣れない（当たり前か！）、絆とJA・関係機関のメールアドレスがなかなかよび出せなかった。となかなか前に進まない状態が続き、校正済みの原稿一本を印刷業者へ送信しただけでアッという間に業務終了となった！

そうは言っても、仕事は待ってはくれない。絆

の締め切りがすぐ目の前まで迫っており、この編集後記が上手くかけず四苦八苦している私ですが、一歩ずつ前進あるのみとの意気込みだけはあります。

取り止めのない文章が続きましたが、あらためて今後も読者の皆様には温かい目で見守っていただきたく思います。

それでは皆様、「SEE YOU ON MAY!」（一）



ホームページアドレス

- JA青森中央会 <https://www.ja-aomori.or.jp/chuoukai/>
イベントの様子、歳時記、産直・JA情報などをご覧ください。
- JAバンク青森 <https://aomori.jabank.org/>
商品・サービスのご案内のほか、マネーシュミレーションや全国のJAバンクへのリンク等をご覧ください。
- JA全農あおもり <https://www.zennoh.or.jp/am/>
生産量日本一のりんご・にんにく・ごぼうをはじめとした農畜産物情報や活動状況、中古農機情報を紹介しております。
- JA共済連青森 <https://www.jakyosai-aomori.jp>
JA共済のご案内のほか、地域貢献活動の取組みを紹介しております。

伝えたい人に、 伝える、伝わる。



JAグループの広報・PRは日本農業新聞の広告で。

広告媒体

日本農業新聞



全国のJAなどが出資し、農業の専門紙では唯一の日報として全国31万部発行※しています。農家組合員とJAグループ、地域をつなぐ全国メディアです。



※日本ABC協会認定
2020年1~6月平均販売部数

日本農業新聞Web



農業関係のWebメディアの世界でも有数のページビューがあり、(2020年度月間平均PV数100万)、農業関係者だけでなく、幅広いユーザーに閲覧されています。記事を配信しているYahoo!ニュースからも、多くのユーザーが流入しています。

フレマルシェ



JAのファーマーズマーケットを中心に全国で25万部を配布するフリーマガジンです。食や農業に関する多様なコンテンツを掲載。食に関心の高い30~60代の女性などの消費者がメイン読者です。

お問い合わせは、日本農業新聞広告部

【Eメール】 koukoku@agrinfo.co.jp

【TEL】 03-6281-5810



THE JAPAN AGRICULTURAL NEWS

日本農業新聞

料理

健康

園芸

手芸

“家活”で暮らしていきたい!!

年6回 別冊付録付き

家の光

定価(税込)
●普通月号 629円
●付録月号(1・4・5・7・9月号)922円
●家計簿付き12月号 1,027円

お申し込みはお近くのJA本・支店(所)へ JAグループ 家の光協会
〒162-8448 東京都新宿区市谷船河原町11 TEL 03-3266-9039 <http://www.ienohikari.net>



つがるロマン
TSUGARU ROMAN



青天の霹靂
SEITEN NO HEKIREKI



まっしぐら
MASSHIGURA

青森から3つの「美味しい!!」

青森米本部
aomori-komehonbu.gr.jp



©やなせたかし



ご家族で過ごす、おだやかな時間へ添える彩りに

Nツアー味覚の旅! Part6

冬・春 2022 号

~おうちに居ながら旅行気分!~

~旅行に行きたいけど、我慢をしているお客さまと
コロナ禍で観光客の減少に悩む施設をつなぎエールを贈る~

旅先エール便

なかなか遠出ができない日々、「おうちに居ながら旅行気分」を味わって
いただくことをコンセプトに、全国の「っておきの美味しさ」をご案内します。
いつの日か、憧れの地へ旅立つ時節まで、旅先の絶品グルメを食べて、
カラダとココロの免疫力パワーアップ!



Nツアー旅行券も
ご利用できず!!

食べてみたい! 食べてほしい!
絶品グルメをご家庭で

全ての商品が
消費税・送料込みでお得!



Nツアー東北「LINE公式アカウント」の友だちになろう!
旅行や旅行関連情報をお送りしています!
左のQRコードをスマホで読み取るだけ、ぜひ登録ください!

エール便のチラシを配布しています。各記念品（総会・職員会など）として、又ご家族用にぜひご利用下さい。

お申込み・
お問い合わせは



(一社)日本旅行業協会正会員 観光庁長官登録旅行業第939号
株式会社 農協観光青森支店
〒030-0847 青森市東大野二丁目1-15
総合旅行業務取扱管理者: 伊藤 亨・田川ますみ
TEL 017-729-8800
FAX 017-729-8803

お申込み・
お問い合わせは

株式会社農協観光代理業
青森県知事登録旅行業者代理業第26号
JA ゆうき青森旅行センター
☎0175-72-1433
総合旅行業務取扱管理者/八重樫泰浩

作品介绍

令和3年度

JA共済青森県小・中学生交通安全ポスターコンクール

(交通安全ポスター最優秀賞)



八戸市立
八戸小学校1年
山田 陽愛



弘前市立
時敏小学校2年
三ツ橋 逞馬



西目屋村立
西目屋小学校3年
山下 栞和

JA共済連会長賞《佳作》



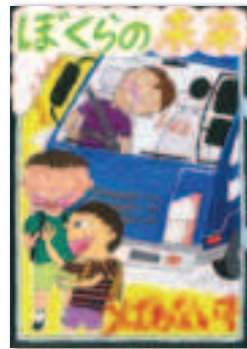
大鰐町立
大鰐小学校4年
葛西 日彩

JA共済連会長賞《銀賞》



青森県立
弘前聾学校5年
齋藤 誓頼

JA共済連会長賞《佳作》



弘前市立
千年小学校6年
齋藤 湊琉

JA共済連会長賞《佳作》



むつ市立
大湊中学校1年
菊池 優

家の光協会会長賞《ちやぐりん賞》



弘前大学教育学部
附属中学校2年
川口 真緒



南部町立
福地中学校3年
川守田 茜

警察庁長官賞